

御陵の風



文責:校長 藤井浩彦

◆「思い」を「形」に・・・



【2学期始業式の様子】

友達と帰っているその青年。友達に別れを告げ家路に…。歩道橋を上ろうとすると、杖をついたお婆さんが、青年の目の前をゆっくりと上っている。知らないふりをしてその横を通り過ぎようとした青年が立ち止まる。「思いは見えないけれど」のテロップが流れ、青年はお婆さんのもとへ行き、手を差し伸べる。「思いやりは誰にでも見える」のテロップが流れ、一緒に階段を上っていく。青年は、優しい笑顔になる。最後に「その気持ちをカタチに」のテロップ…。

そうです。東日本大震災のあとに何度も流れていたCMです。私は、その当時、東日本大震災の津波やその被害の様子を映像で見るたびに、何とも言えない苦しい気持ちになりました。「自分はここにいていいのだろうか?」「生きるって何だろうか?」「命って何だろうか?」、「家族って何だろうか?」…そんな中で、このCMを見たとき、「私にできることは?」「行動することの大切さ」などを改めて考えさせられ、胸を締め付けられる思いがしました。それと同時に、人間の素晴らしさ、助け合うことの尊さ、つながることの大切さ、ボランティアの凄さ…多くのことを感じました。

たまたま、このCMを最近になって目にすることがあり、子ども達にも見せたいと思い、今回始業式での紹介となりました。もともと、このCMに出てくる言葉は、宮澤章二さんという方の書いた詩がもとになっています。以下の「行為の意味」という詩です。

あなたの「こころ」はどんな形ですか 人に聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない けれどほんとうに見えないのであろうか
確かに「こころ」は誰にも見えないけれど 「こころづかい」は見えるのだ
それは人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の「思い」は見えないけれど 「思いやり」は見えるのだ
それは人に対する積極的な行為なのだから
あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も初めて美しく生きる それは 人が人として生きることだ

自分の行為・行動について振り返ることができる詩だと私は思っています。子ども達には、たくさんの素敵な「思い」を1学期以上に、ぜひ「形」にしていこうと話しました。具体的な「頑張り」、日常的な「思いやり」や「心遣い」…それらが溢れるようなあたたかい素敵な学校にしていきたいです。そして、私たち教職員も子ども達への「思い」をもっともっと「形」にしていきたいと思っています。2学期も教職員一同、精一杯頑張りますので、どうぞ、ご理解とご支援をよろしく願います。

今後の行事予定

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
9	9	月	代議員認証式	10	29	日	区新人大会(サッカー・野球・ソフト)
	12	木	選手激励会		1	火	3年生学力診断テスト
	14	土	地域清掃・GORYOマルシェ		5	土	区新人大会(サッカー・野球・ソフト)
	18	水	2年生修学旅行[~20日]		6	日	筑前地区新人陸上大会
	20	金	中間考査[3年生]		7	月	振替休日(9月14日分)
	21	土	区駅伝大会		12	土	区新人大会(バレー・バスケット・剣道)
	25	水	おはよう運動[~27日]		13	日	区新人大会(バレー・バスケット)
	27	金	中間考査[1・2年生]		25	金	第37回文化祭[まどかぴあ]
	28	土	区新人大会(サッカー・野球)		31	木	3年生学力診断テスト



『利他の心』

学校の詩 ⑤

京セラやKDDIの創業者である稲盛和夫氏の「生き方」という本の中に、以下のようなお話が載っています。

私(稲盛氏)がお世話になった円福寺のご老師が、思いやりの大切さについて次のようなたとえ話で説いておられました。

あるお寺で若い修行僧が老師に「あの世には地獄と極楽があるそうですが、地獄とはどんなところですか」と尋ねました。すると老師は次のように答えます。「たしかにあの世には地獄もあれば、極楽もある。しかし、両者には想像しているほどの違いがあるわけではなく、外見上もまったく同じような場所だ。ただ一つ違っているのは、そこにいる人たちの心なのだ」

老師が語るには、地獄と極楽には同じような釜があり、そこには同じようにおいしそうなおどんがぐつぐつと煮えている。ところが、そのうどんを食べるのが一苦労で、長さが1メートルほどの長い箸(はし)を使うしかないのです。

地獄に住んでいる人はみな、われ先にうどんを食べようと、争って箸を釜に突っ込んでうどんをつかもうとしますが、あまりに箸が長く、うまく口まで運べません。しまいには他人がつかんだうどんを無理やり奪おうと争い、ケンカになって、うどんは飛び散り、だれ一人として目の前のうどんを口にすることはできない。おいしそうなおどんを目の前にしながら、だれもが飢えてやせ衰えている。それが地獄の光景だということです。

それに対して極楽では、同じ条件でもまったく違う光景が繰り広げられています。だれもが自分の長い箸でうどんをつかむと、釜の向こう側にいる人の口へと運び、「あなたからお先にどうぞ」と食べさせてあげる。そうやってうどんを食べた人も、「ありがとう。次はあなたの番です」と、お返しにうどんを取ってあげます。ですから極楽では全員がおだやかにうどんを食べることができ、満ち足りた心になれる…

同じような世界に住んでいても、あたたかい思いやりの心をもてるかどうかで、そこが極楽にも地獄にもなる。それがこの話のいわんとしていることなのです。

稲盛氏は、これが「利他の心」であると言っています。「利他の心」とは、仏教でいう「他に善(よ)かれかし」という慈悲の心、キリスト教でいう「愛」のこと。もっとシンプルに表現するならば「世のため、人のために尽くす」ことであると述べています。しかし、だからといって、そんなにたいそうに考えることではないとも…。

「家族のために働きたい」「親を安心させたい」「子どもにおいしいものを食べさせたい」「子どもの喜ぶ顔が見たい」「友達を元気にしてあげたい」…など周囲の人を思いやる小さな心がけこそが「利他の心」であるということです。

稲盛氏は、京セラが小さな会社だったころから新入社員の入社式でも、『君たちは両親やたくさんの人からお世話になってきた。これからは、「してもらう」側ではなく「してあげる」側へと立場をかえなさい』と伝え、その後も「利他の心」の方針のもと努力してきた結果、会社が大きく成功し今があるのだと言っています。

先日、あるテレビ番組ではとても繁盛している飲食店の経営者のインタビューが流れていました。その方曰く、「最初は、儲かるにはどうしたらいいかとそればかり考えていました。ところが、それではうまくいきませんでした。どうしたものかと考えたときに、私がこの仕事を始めた原点にかえたのです。そうだ！私はおいしいものを作って人に食べてもらいたい。笑顔になってもらいたい…まずは、儲けばかり考えるのではなく、安くておいしいものを多くの人に食べてもらいたい。お客様の笑顔が私の生きがいなんだ。それからは、お客様のことを一番に考えた経営へと方針を変えたのです。そうすると、お客様がまたお客様を呼んでくださって現在になりました」と…。これも「利他の心」だと思います。

人間にはもともと、「人を喜ばせたい」「人の役に立ちたい」「社会に役立つ人になりたい」…などの「利他の心」が備わっていると思います。様々な災害が起こっても、数多くのボランティアが全国から集まります。もちろん、「人助け」や「思いやり」の行動が日常的にもたくさんあります。

「利他の心」そして、始業式で話した「思いを形に…」、通じるところがあると思います。このことを私自身がいつも心にとどめ、日々精進していきたいと思っています。 【校長：藤井浩彦】